

公立大学法人宮城大学評価委員会質疑事項

通し 番号	対象項目	質 問 事 項	回 答
1	2 1 (国際交流)	留学生については、受け入れ枠の縮小の方向で見直すとなる場合、受け入れ体制の縮小も避けられないことになるか。(伊勢委員)	現行の中期計画目標である留学生 3 0 % 自体が現実的ではなかったため、それを想定した受け入れ体制の整備は行われていない。 今後は、数値目標によらず、教育・研究における質的な向上を図ることにより、留学生数の増加が期待できるため、受け入れ体制の一層の整備を進めていきたい。
2	3 3 (情報公開の推進)	広報物のリニューアルによる効果はどうか。(伊勢委員)	昨年度策定した「宮城大学広報基本方針」では、広報事業に関する P D C A サイクルについて、質的評価（アンケート等）と量的評価（アクセス数、参加者数等）を組み合わせ分析を行い、各事業での取組改善につなげることとしているが、基本方針策定前は評価自体実施していなかったことから、リニューアルによる効果の測定は困難な状況となっている。 一方で、広報物のリニューアル後は、基本方針策定に合わせて実施した全学広報推進体制の構築や統一的デザインコンセプトの確立等により、教職員の広報活動への動機づけが高まり、学内での情報集約・発信の速度や質の向上、発信件数の大幅増につながっている。 また、ウェブサイト、大学案内等の各種冊子媒体、オープンキャンパスに関する各種アンケート調査でも肯定的な意見が多く寄せられているほか、メディアの取材や外部からの視察等も徐々に増えており、リニューアル効果の現れとも考えている。